

会議結果報告書

令和7年7月14日

会議の名称	第2回 東地区まちづくり懇話会	
種別	<input type="checkbox"/> 附属機関 <input checked="" type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和7年7月1日(火) 14時00分～	
開催場所	赤れんがパーク2号棟 特別会議室	
出席者	別紙のとおり	
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回東地区まちづくり懇話会について ・MAIZURU PLAYBACK FES.について ・まちづくりについて 	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	[理由]
傍聴者数	0名	
審議結果 及び 主な意見等	別紙のとおり	
会議録の作成様式	<input type="checkbox"/> 詳細 <input checked="" type="checkbox"/> 要約	
備考		

担当課	舞鶴市建設部都市計画課 TEL (0773)66-1048
-----	----------------------------------

第2回東地区まちづくり懇話会

1. 日時:令和7年7月1日(火)14:00~16:00
2. 場所:赤れんがパーク2号棟 特別会議室
3. 出席者:(委員)嶋田委員、川井委員、名取委員、芦田委員、福村委員、渡邊委員
(事務局)上羽次長、山下主幹、阿部係長、浪江
山本次長
4. ゲスト:PLAYBACK Fes.実行委員会 実行委員長 金村 峰土 様

5. 内容

【事務局より】

○第1回東地区まちづくり懇話会について

舞鶴高専の存在はまちの再生に大きな可能性を秘めており、若者の定着、企業支援、住環境の魅力向上、具体的なプロジェクト推進、そして住民の暮らしを大切にしまちづくり構想が重要との意見があった。

【講演内容】

○舞鶴の魅力発信

- ・舞鶴のまちづくりを本気で考えるなら、夢物語を語るよりも、現実に関わり添った考え方も必要。
- ・観光客には目的が必要であり、歴史や文化(赤れんがなど)、地元資源を活かす。
- ・ベンチャー企業が来てくれた場合に誘致後の定着を見据え、舞鶴の良さ見せてあげられるような準備期間が必要。

○住みやすいまち、若者が楽しめるまち

- ・このまちに人が来ない理由として、車・バイクなしでは移動困難なこと、雨が多いことが挙げられる。そのため、インフラ整備(ボックスカルバート、地下道、アーケード等)を進め、移動しやすいまちづくりをする。特に、アーケードが守られていることは大切なことである。
- ・学生が住みやすいところ、遠くにあるから今の高専があつた場所にあるから全部が駄目ではなく、その人の運びをどうしたらいいかをまず考えるべきである。
- ・MAIZURU PLAYBACK FESの実績から、来場者のリピート率や市内での消費が低く、舞鶴がイベントのついでに立ち寄る場所になっていない現状がある。
- ・吉原の舟屋や引き揚げの歴史、建部山など、舞鶴の魅力を積極的にアピールしていく。
- ・舞鶴のポテンシャル(四季、食、海、物流、話題性)は高い。地域資源をもっと応援し、PRはプロに任せる。

○企業誘致について

- ・舞鶴の立地(高速道路でのアクセス、日本海側の物流拠点)はとても良い。

- ・港があり、リサイクルポートに指定されている舞鶴のまちを活かすために、産業的に何を目的とした企業を誘致するかを算定すべき。
- ・人と人との馴染みを持つことが大切。企業誘致などでまちが受け入れるよう意識を変えなければならない。
- ・新しい企業が参入しやすい制度設計(例:3年間税免除)。

○まちづくりの提案

- ・西舞鶴は食、東舞鶴は美術館、スポーツ、ファッション、温泉などの娯楽施設を集約し、東西で役割分担を明確にすべきである。
- ・漫画家の聖地化を提案。漫画家誘致による世界からの集客の可能性はある。
- ・”まちが良くなってきている”と、舞鶴の子どもたちに夢を見せるのが大人の役割である。考えて自分たちがどうすべきか考えることを与えるのも我々の仕事ではないかと考える。

【意見交換】

- ・「子供たちに夢を与える」考えに共感。子どもたちが憧れる大人との出会いの機会があるだけで、子どもたちのやる気が全然違ってくる。
- ・道路施策として、七条通りは一方通行ではなく、両通にした方がまちづくりとして良いのではないか。
- ・「行ってみたいまち」と「住みたいまち」は異なるという意見に対し、重なる部分もあるではないか。
 - あえて分けることで物事が進む場合がある。
- ・「行ってみたいまち」に偏ると、住民置き去りになる懸念がある。
 - まずは、地元の人々が新しいものを受け入れることに慣れるべき。そして、良い方向へ気持ちを向けてもらうことが必要。
- ・行動力のある事業者が積極的に投資してまちづくりを進めることを応援したい。
- ・舞鶴の閉塞感を強く感じている。舞鶴は17年ぶりの事業者進出があり、その間多くの事業者が撤退している状況は、福知山や綾部と比較しても状況が異なる。
 - 福知山や綾部にはない港を最大限に活用すべきである。
- ・舞鶴にもっと元気な企業が必要である。
 - 新規企業誘致については、騙されると思って、まずは多くの企業を呼び込む。その中から本当に成長する企業が生まれる。
- ・できないことはない。全ては人の力であり、MAIZURU PLAYBACK FESをはじめ、これまでの活動は多くの人々の力を借りていること、そして舞鶴の人々が少しずつ耳を傾けてくれたことで今の流れができています。